【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公開番号】特開2010-190899(P2010-190899A)
【公開日】平成22年9月2日(2010.9.2)
【年通号数】公開・登録公報2010-035
【出願番号】特願2010-44521(P2010-44521)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　33/571　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/543　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　33/58　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　33/571
Ｇ０１Ｎ　33/543　５２１
Ｇ０１Ｎ　33/58　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月31日(2010.3.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ヒト対象における膣トリコモナス感染症を女性対象由来の膣スワブサンプルでは８０％を超える、および男性または女性対象由来の尿サンプルでは４０％を超える信頼性で検出する方法であって、
対象から膣スワブサンプルまたは尿サンプルを入手するステップと、
サンプルをトリコモナスアドヘシンペプチドに対する特異的な抗体と接触させるステップと、
前記接触させるステップによって、対象がトリコモナスに感染している場合は抗体－アドヘシンペプチド複合体を形成させるステップと、および
それにより規定の信頼性で対象におけるトリコモナス感染症の存在または不在を各々検出するために、前記複合体の存在または不在を検出するステップと、を含む方法。
【請求項２】
接触させる抗体がＡＰ６５、ＡＰ５１、ＡＰ３３、ＡＰ２３アドヘシンタンパク質、およびそれらの免疫学的に反応性を示すフラグメントからなる群から選択されるアドヘシンペプチドに対して免疫特異的である、請求項１の方法。
【請求項３】
前記アドヘシンペプチドがＡＰ６５アドヘシンタンパク質である、請求項２の方法。
【請求項４】
前記抗体が抗ＡＰ６５抗体である、請求項２の方法。
【請求項５】
前記接触させるステップ、形成させるステップ、および検出するステップが９０％を超える信頼性で膣サンプルからトリコモナス感染症を検出するために有効である請求項１の方法。６８において。前記接触させるステップが、上流から下流方向に、サンプル適用領域と、トリコモナスアドヘシンペプチドに対して特異的な非固定化標識抗体を含有する反応ゾーンと、および前記複合体内のトリコモナスアドヘシンペプチドに対して特異的な固

定化抗体を含有する検出ゾーンと、を有するドライストリップのサンプル適用ゾーン上にサンプルを配置するステップを含み、このとき（ｉ）サンプルは前記ストリップ上で反応ゾーンに向かって下流方向に移動し、（ｉｉ）サンプル中のアドヘシンペプチド分析物は反応ゾーン内の非固定化抗体と反応して移動性の標識アドヘシンペプチド－抗体複合体を形成し、そして（ｉｉｉ）複合体は検出ゾーンに向かって移動し、（ｉｖ）前記複合体は検出ゾーン内の固定化抗体と反応して検出ゾーン内で固定化標識複合体を形成し、そして（ｖ）非複合体化非固定化標識抗体は検出ゾーンの下流方向に移動し、そして検出するステップは検出ゾーンにおける固定化標識複合体の存在または不在を検出するステップを含む、請求項１の方法。

【請求項６】

入手されるサンプルがパップスミアであり、前記接触させるステップが標識抗体の存在下でパップスミアを形成するステップを含む請求項１の方法であって、そして該方法がさらに非結合標識抗体を取り除くためにパップスミアを処理するステップを含む方法。

【請求項７】

入手されて接触させられるサンプルがパップスミアを形成するステップから得られる残留液である、請求項６の方法。

【請求項８】

入手されるパップスミアサンプルがＣｙｔｙｃ社製Ｔｈｉｎ－Ｐｒｅｐパップスミアにより例示されるリキッドベースのパップスミアである、請求項７の方法。